

第5回 社会抑うつ度調査 2021年5月分析結果

ロシア軍によるウクライナ侵攻とその報道、
および精神的健康に関する調査

目次

1. 精神的健康の悪化
 - 抑うつ・不安感
 - 孤独感・人生満足感
2. 戦争に関する調査結果
 - 2-1 戦争についてのメディア視聴
 - ・戦争についてのメディア視聴：単純集計
 - ・戦争についてのメディア視聴と精神的健康
 - ・視聴メディアの種類と精神的健康
 - 2-2 戦争についての態度
 - 2-3 戦争についてのメディア視聴と態度の関連

引用文献

1. 精神的健康の悪化

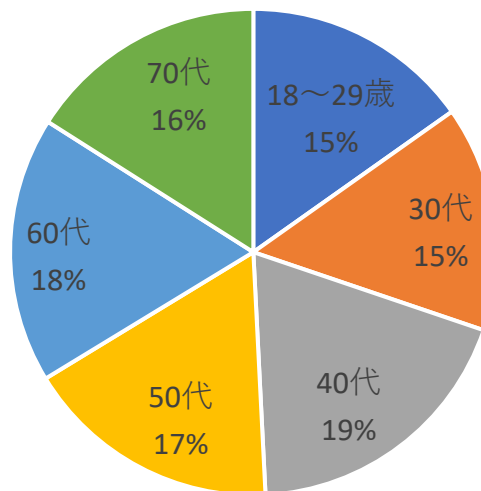
調査方法

- 調査方法：WEBアンケート
- 調査実施日：2022年5月9日（月）～2022年5月11日（水）
- 調査対象者：ウェブアンケートサイトのモニター登録者のうち、18～79歳の男女。
全国の地域・性別・年齢の人口分布（総務省統計局「人口推計」2018年10月1日現在人口（2019年4月12日発表），<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2018np/index.html>）に合わせて、調査対象者の割付を行った。調査に際し、サティスファイス検出項目を2問設け、いずれの質問にも指示通り回答した人のみを有効回答とした。
- 有効回答数：各調査回につき1000名

※ 2021年11月までは毎月、それ以降は3か月に1回調査を実施している。

回答者の性別・年齢

- 男性 496人（49.6％）・女性 504人（50.4％）
- 50.1歳（SD = 16.05）



回答者の年齢分布

精神的健康の推移

精神的健康

- 抑うつ：PHQ-9（村松, 2014）を使用
- 不安障害：GAD=7（村松, 2014）を使用 ⇒ 中度以上の人の割合を指標とした
- 孤独感：3項目孤独感尺度（Igarashi, 2019）を使用
- 人生満足度：SWLS（角野, 1995） ⇒ 平均値を指標とした

本資料の図は、2021年6月からチキラボが実施している調査データに、早稲田大学政治経済学術院の上田准教授からご提供いただいた2020年4月～2021年2月のデータを追加して作成したものです。図は、下記論文に掲載された図（2020年4月～2020年10月のデータを使用）に基づいています。（人生満足度については、2021年6月から調査を開始したため、それ以前のデータはありません）

2021年2月までのデータは今回調査とは調査方法が異なるため、一概に比較はできません。

しかし、調査対象者の性別・年齢・居住地等の割付条件は本調査と同じであり、人々の精神的健康の長期的な変遷について、ある程度の比較は可能だと考えています。

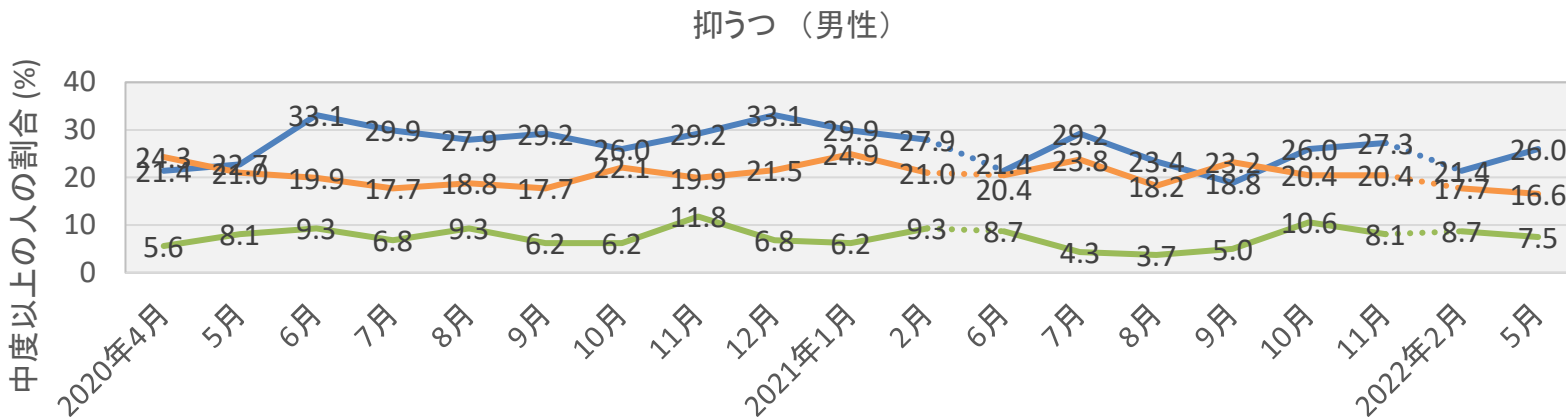
【出典】

Michiko Ueda, Robert Nordström, Tetsuya Matsubayashi (2021). Suicide and mental health during the COVID-19 pandemic in Japan, Journal of Public Health, fdab113, <https://doi.org/10.1093/pubmed/fdab113>.

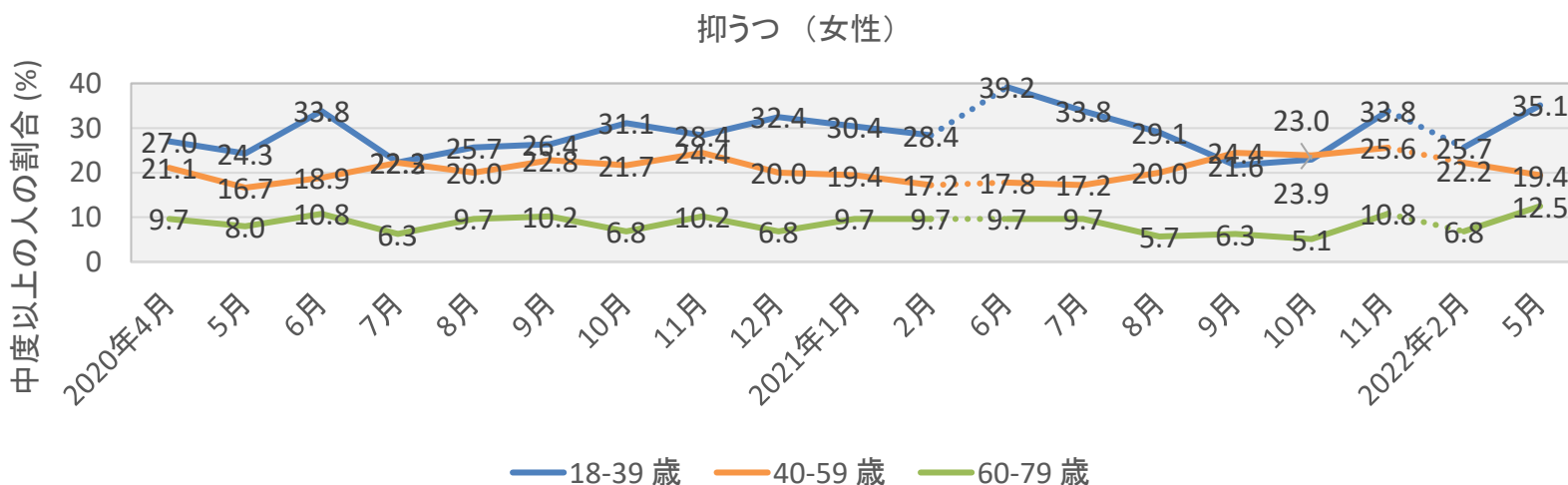
抑うつ推移

※ 抑うつが中度以上の人の割合

男性



女性



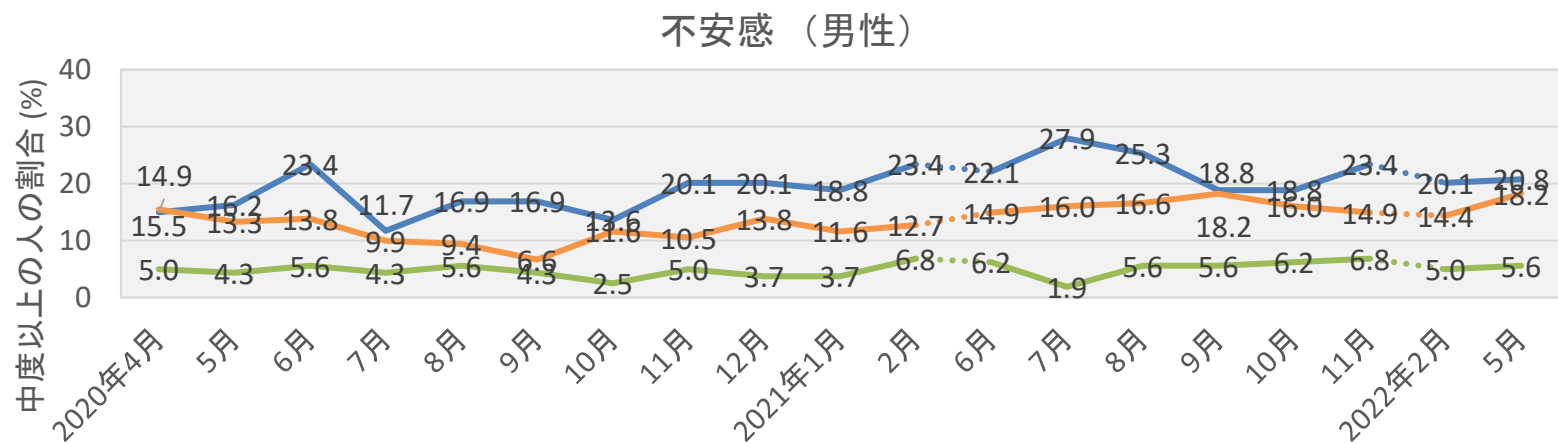
- 今年2月調査と比較すると、若年女性（18-39歳）と高齢女性（60-79歳）で、抑うつ度の高い人が増加している傾向があった。^{a)}

a) いずれも χ^2 検定で10%傾向差

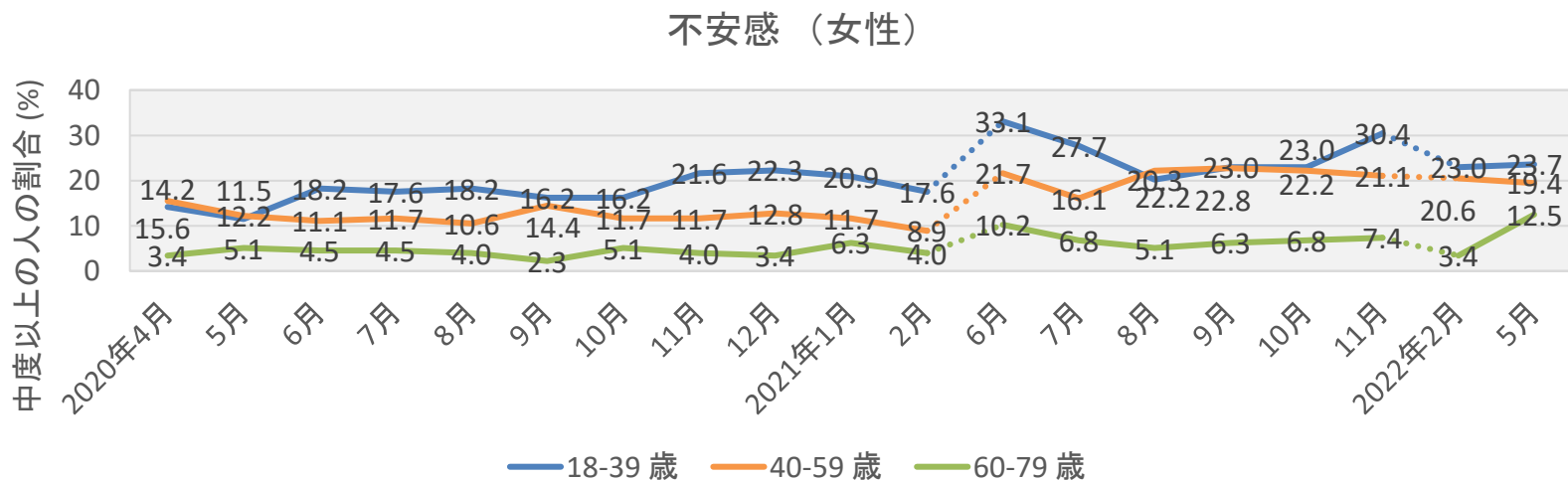
不安感の推移

※ 不安感が中度以上の人の割合

男性



女性



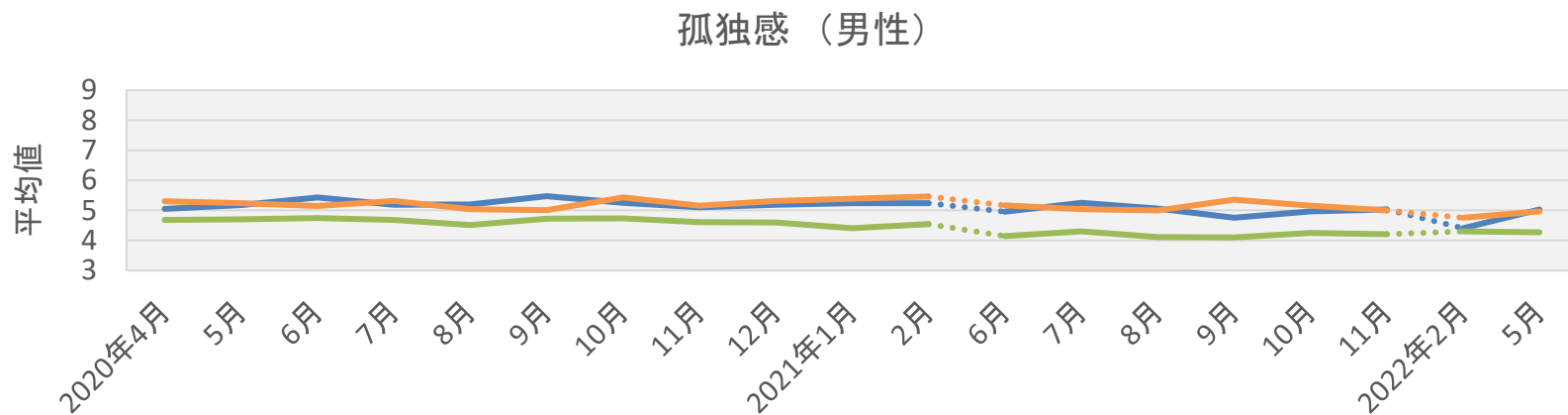
- 今年2月調査と比較すると、高齢女性（60-79歳）で、不安感の高い人が有意に増加していた。a)

a) χ^2 検定で1%水準で有意

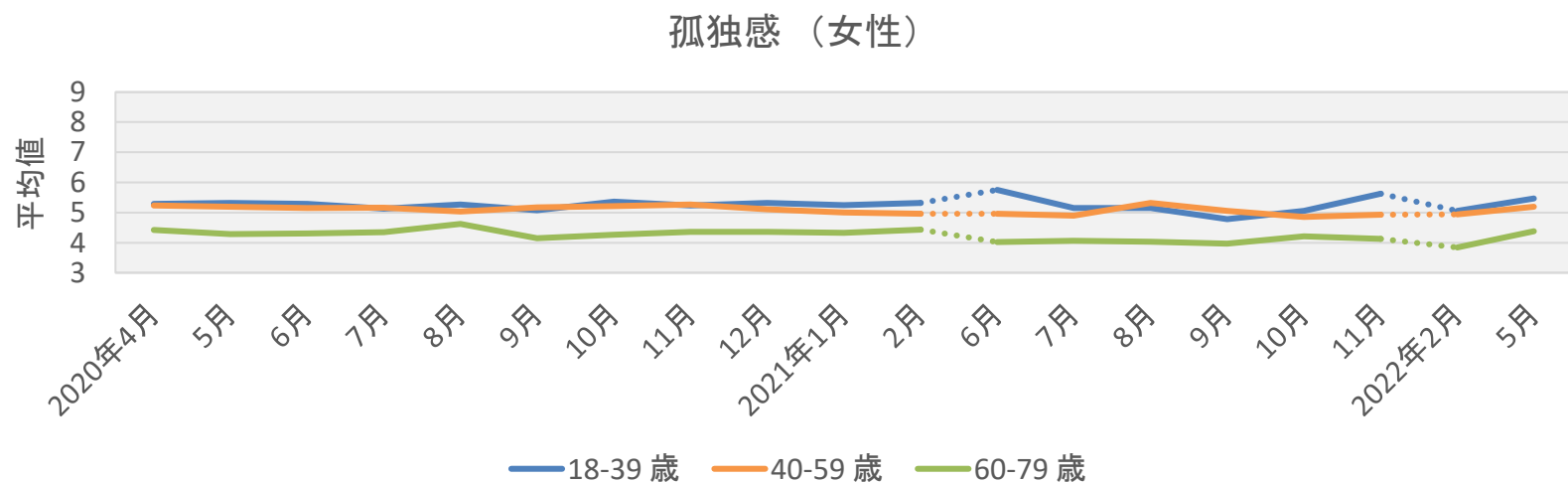
孤独感の推移

※ 孤独感の平均値

男性



女性



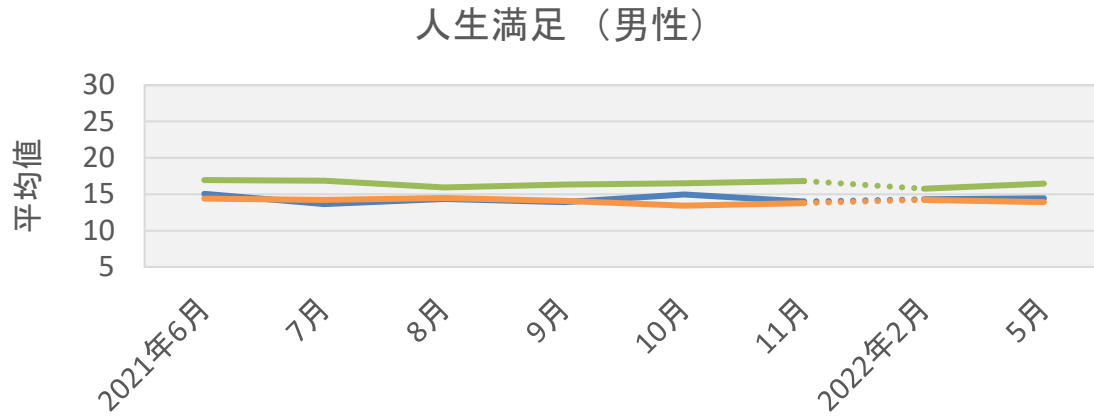
- 今年2月調査と比較すると、全体的に孤独感が高まっていた。特に、若年男性（18-39歳）と高齢女性（60-79歳）でその傾向が顕著に見られた。^{a)}

a) t検定で1%水準で有意

人生満足感の推移

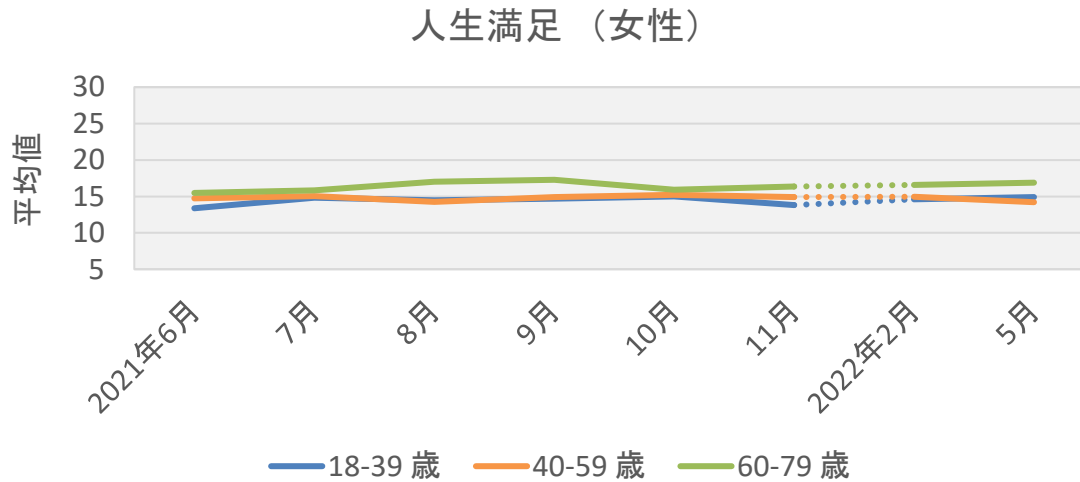
※ 人生満足感の平均値

男性



※ 人生満足感については、2021年6月から調査を開始したため、それ以前のデータはありません。

女性



- 今年2月調査と比較して差はなかった。a)

a) t検定による分析

精神的健康：まとめ

- 2022年2月時点と比較して、若年女性（18-39歳）と高齢女性（60-79歳）で抑うつ度が高い人が増加している傾向があった。
 - 全体的に孤独感が有意に高まっており、特に若年男性（18-39歳）と高齢女性（60-79歳）でその傾向が見られた。
 - 高齢女性（60-79歳）については、不安感も有意に高まっており、昨年2月からの3か月間で、高齢女性の精神的健康が悪化していると言える。
- ⇒ 戦争の影響とは一概には言えないが、全体的に精神的傾向の悪化が見られる。
- ⇒ 特に高齢女性の精神的健康が全般的に悪化しており、注意が必要である。

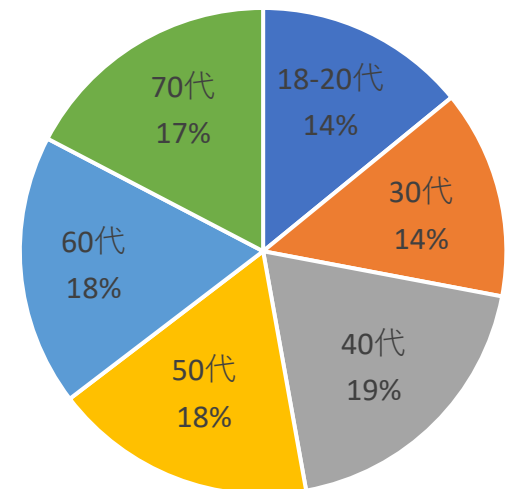
2. 戦争に関する 調査結果

調査方法

- 調査方法：WEBアンケート
- 調査実施日：2022年5月9日（月）～2022年5月11日（水）
- 調査対象者：調査会社のモニター登録者のうち、18～79歳の男女1000人を対象に、「戦争についての考え方をたずねる調査」への協力を依頼した。
対象者は、全国の地域・性別・年齢の人口分布（総務省統計局「人口推計」2018年10月1日現在人口（2019年4月12日発表; <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2018np/index.html>）に合わせて割付を行った。調査に際し、サテイスファイス検出項目を2問設け、いずれの質問にも指示通り回答した人のみを有効回答とした。
- 有効回答数：865名
- 回収率：86.5%

回答者の性別・年齢

- 男性 442人（51.1%）・女性 423人（48.9%）
- 平均年齢 50.9歳（SD = 16.02）



回答者の年齢分布

2-1. 戦争についての メディア視聴

戦争についてのメディア視聴：質問項目

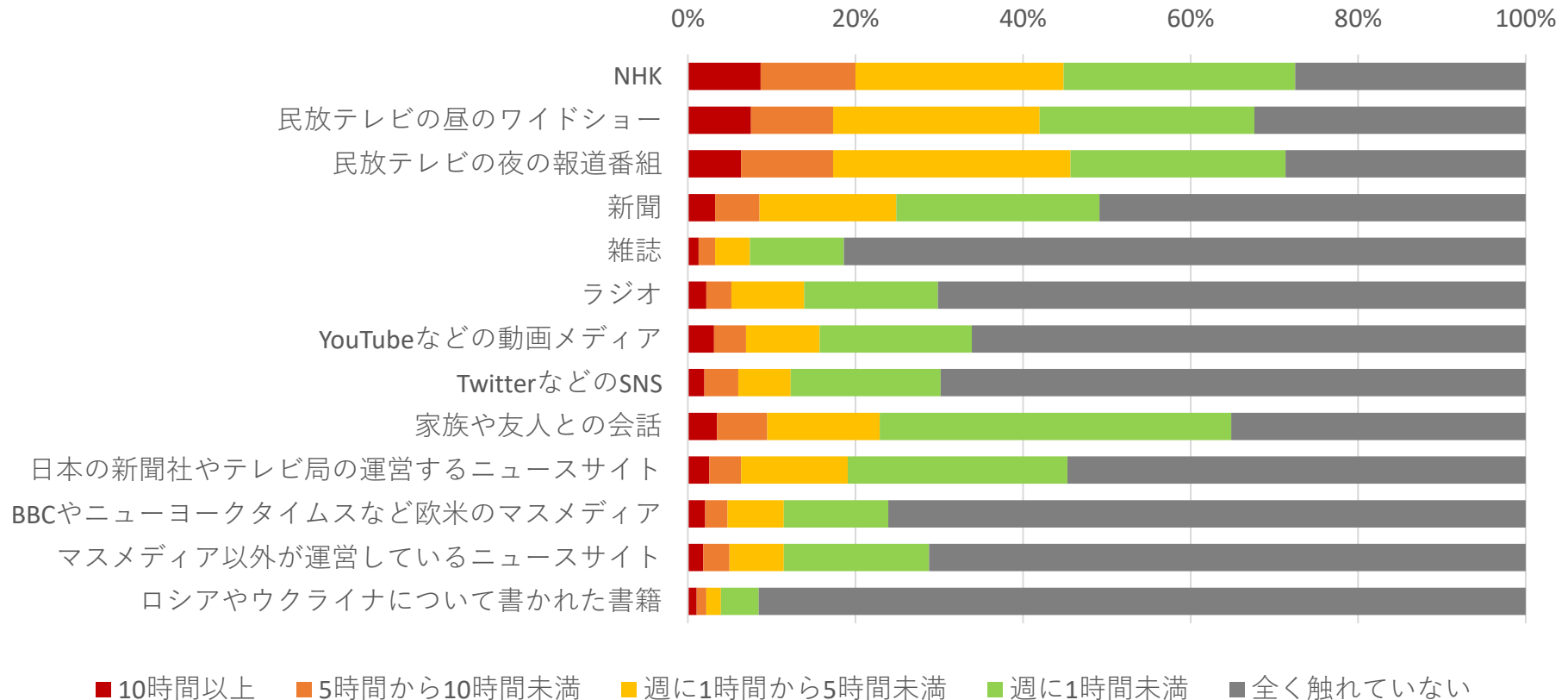
問 あなたはロシアとウクライナの戦争の情報を、以下のそれぞれのメディアで、どのくらい見たり聞いたりしますか。この1週間に触れたおおよその時間を教えてください。

(選択肢：20時間以上／10時間から20時間未満／5時間から10時間未満／週に1時間から5時間未満／週に1時間未満／全く触れていない)

- NHK
- 民放テレビのワイドショー
- 民放テレビの夜の報道番組
- 新聞
- 雑誌
- ラジオ
- YouTubeなどの動画メディア
- Twitterなどの動画メディア
- 家族や友人との会話
- 日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト
- BCCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア（およびそのサイト）
- マスメディア以外が運営しているニュースサイト
- ロシアやウクライナについて書かれた書籍

戦争についてのメディア視聴：単純集計

あなたはロシアとウクライナの戦争の情報を、以下のそれぞれのメディアで、どのくらい見たり聞いたりしますか。この1週間に触れたおおよその時間を教えてください。



- TV（NHK、民放テレビのワイドショー、民放テレビの夜の報道番組）で戦争についての情報に触れている人が多く、40%以上の方が週に1時間以上視聴していた。
- インターネット（youtube等の動画、SNS、ニュースサイト）については、週に1時間以上戦争についての情報を視聴している人は20%以下だった。

戦争についてのメディア視聴と精神的健康（抑うつ・不安）

戦争についての各メディア視聴量を合計し^{a)}、精神的健康（抑うつ・不安感）との関連を調べた。年齢・性別・世帯収入など、精神的健康に関連のある他の要因は統制した。

抑うつ・不安の中程度以上を従属変数としたロジスティック回帰分析^{b)}

	オッズ比	
	抑うつ	不安感
メディア視聴量	1.036**	1.041***
年齢	.966***	.977**
性別（女性=1, 男性=0）	1.591*	1.541*
学歴（1=中学校～5=大学・大学院）	1.013	1.078
世帯収入（1=200万未満～7=1200万以上）	.719***	.765**
就労状態（現在仕事をしている=1, していない=0）	1.085	1.310
婚姻状態（現在結婚している=1, 他=0）	.664 †	.701
カイ二乗	72.6***	51.2***
自由度	7	7

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

⇒ 戦争についてのメディア視聴量が多いほど、抑うつが高い人・不安感が高い人が多かった。

a) 信頼性係数 $\alpha=0.87$ と十分に高かったため、加算した。

b) 抑うつ・不安がそれぞれ中程度以上を1、中程度未満を0としたロジスティック回帰分析。オッズ比が1より大きいほど中程度以上の人が多く、1より小さいほど少ない。

戦争についてのメディア視聴と精神的健康（孤独感・人生満足感）

戦争についての各メディア視聴量を合計し^{a)}、精神的健康（孤独感・人生満足感）との関連を調べた。年齢・性別・世帯収入など、精神的健康に関連のある他の要因は統制した。

孤独感・人生満足感を従属変数とした重回帰分析^{b)}

	標準偏回帰係数 (β)	
	孤独感	人生満足感
メディア視聴量	.107**	.049
年齢	-.194***	.055
性別（女性=1, 男性=0）	.048	.081*
学歴（1=中学校～5=大学・大学院）	-.012	.060
世帯収入（1=200万未満～7=1200万以上）	-.174***	.149***
就労状態（現在仕事をしている=1, していない=0）	-.052	.035
婚姻状態（現在結婚している=1, 他=0）	-.091*	.202***
調整済みR ²	.086***	.102***
R	.307	.333

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

⇒ 戦争についてのメディア視聴量が多いほど、孤独感が高かった。

a) 信頼性係数 $\alpha=0.87$ と十分に高かったため、加算した

b) 標準偏回帰係数 β が大きいほど孤独感・人生満足感が高く、小さいほど低い。b) 60～79歳が基準カテゴリ; c) 中学・高校が基準カテゴリ

戦争についてのメディア視聴と精神的健康（抑うつ・不安感）

抑うつ・不安感の高低（中程度未満／中程度以上）別の各メディア視聴量

	抑うつ			不安感		
	高群	低群	t検定による有意差	高群	低群	t検定による有意差
NHK	2.45	2.50		2.60	2.47	
民放テレビの昼のワイドショー	2.51	2.34		2.60	2.33	*
民放テレビの夜の報道番組	2.55	2.41		2.57	2.41	
新聞	1.77	1.90		1.85	1.89	
雑誌	1.46	1.28	†	1.53	1.28	*
ラジオ	1.69	1.49	*	1.78	1.47	**
YouTubeなどの動画メディア	1.77	1.58		1.88	1.56	**
TwitterなどのSNS	1.73	1.46	*	1.77	1.46	**
家族や友人との会話	1.96	2.03		2.01	2.02	
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	1.82	1.73		1.91	1.71	†
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	1.53	1.41		1.64	1.39	*
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	1.56	1.46		1.63	1.45	†
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	1.28	1.14	†	1.32	1.13	*

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 抑うつが高い人ほど、雑誌、ラジオ、TwitterなどのSNS、ロシアやウクライナについて書かれた書籍で戦争についての情報に触れていた。
- 不安感が高い人ほど、民放テレビの昼のワイドショー、雑誌、ラジオ、YouTubeなどの動画メディア、TwitterなどのSNS、日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト、BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア、マスメディア以外が運営しているニュースサイト、ロシアやウクライナについて書かれた書籍で戦争についての情報に触れていた。

戦争についてのメディア視聴と精神的健康（孤独感・人生満足感）

各メディア視聴と孤独感・人生満足感との相関係数

	孤独感	人生満足感
NHK	-.013	.126***
民放テレビの昼のワイドショー	.007	.036
民放テレビの夜の報道番組	.019	.024
新聞	-.049	.124***
雑誌	.051	.044
ラジオ	.068*	.021
YouTubeなどの動画メディア	.068*	-.005
TwitterなどのSNS	.068*	-.001
家族や友人との会話	-.084*	.185***
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.021	.088**
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	.062 †	.050
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.043	.020
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	.049	.014

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- ラジオ、YouTubeなどの動画メディア、TwitterなどのSNS、BBCなどの欧米のマスメディアで戦争についての情報を視聴している人ほど孤独感が高かった。
- NHK、新聞、日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイトで戦争について視聴しているほど人生満足感が高かった。
- 家族や友人と戦争についての会話をしている人ほど孤独感が低く、人生満足感も高かった。

視聴メディアの種類^{a)}と精神的健康（抑うつ・不安感）

抑うつ・不安の中程度以上を従属変数としたロジスティック回帰分析^{b)}

	オッズ比	
	抑うつ	不安感
NHK	1.048	1.095
民放テレビの昼のワイドショー	1.196	1.280*
民放テレビの夜の報道番組	1.067	.938
新聞	.998	1.003
YouTubeなどの動画メディア	1.006	1.135
TwitterなどのSNS	1.072	1.126
家族や友人との会話	.813	.780†
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	1.236†	1.152
年齢	.964***	.977**
性別（女性=1, 男性=0）	1.609*	1.641*
学歴（1=中学校～5=大学・大学院）	.996	1.062
世帯収入（1=200万未満～7=1200万以上）	.739***	.794**
就労状態（現在仕事をしている=1, していない=0）	1.118	1.373
婚姻状態（現在結婚している=1, 他=0）	.657†	.713
カイ二乗	79.5***	57.1***
自由度	14	14

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- ⇒ **ニュースサイトで戦争についての情報に触れているほど、抑うつが高い人が多かった。**
- ⇒ **民放テレビの昼のワイドショーで情報に触れているほど不安感が高い人が多く、家族や友人との会話で情報に触れているほど不安感が高い人が少なかった。**

a) 雑誌、ラジオ、海外メディア、マスメディア以外のニュースサイト、書籍については、7割以上が「全く触れていない」と回答していたため、分析から除外した; b) 抑うつ・不安がそれぞれ中程度以上を1、中程度未満を0としたロジスティック回帰分析。オッズ比が1より大きいほど中程度以上の人が多く、1より小さいほど少ない。

視聴メディアの種類^{a)}と精神的健康（孤独感・人生満足感）

孤独感・人生満足感を従属変数とした重回帰分析^{b)}

	標準偏回帰係数 (β)	
	孤独感	人生満足感
NHK	.049	.062
民放テレビの昼のワイドショー	.032	-.046
民放テレビの夜の報道番組	.053	-.092 †
新聞	.038	.026
YouTubeなどの動画メディア	.045	-.011
TwitterなどのSNS	-.009	-.022
家族や友人との会話	-.131 **	.152 **
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.067	.021
年齢	-.209 ***	.034
性別（女性=1, 男性=0）	.059	.074 *
学歴（1=中学校～5=大学・大学院）	-.021	.055
世帯収入（1=200万未満～7=1200万以上）	-.161 ***	.119 **
就労状態（現在仕事をしている=1, していない=0）	-.047	.037
婚姻状態（現在結婚している=1, 他=0）	-.079 †	.193 ***
調整済みR ²	.091 ***	.111 ***
R	.330	.367

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- ⇒ **家族や友人との会話で戦争についての情報に触れているほど、孤独感が低く、人生満足感が高かった。**
- ⇒ **民放テレビの夜の報道番組で情報に触れているほど人生満足感が低かった。**

a) 雑誌、ラジオ、海外メディア、マスメディア以外のニュースサイト、書籍については、7割以上が「全く触れていない」と回答していたため、分析から除外した; b) 標準偏回帰係数 β が大きいほど孤独感・人生満足感が高く、小さいほど低い

戦争についてのメディア視聴：まとめ

- TV（NHK、民放テレビのワイドショー、民放テレビの夜の報道番組）で戦争についての情報に触れている人が多く、40%以上の方が週に1時間以上視聴していた。
 - 一方、インターネット（youtube等の動画、SNS、ニュースサイト）については、戦争についての情報を週に1時間以上視聴している人は20%以下と少なかった。
 - 戦争についてメディアで視聴している量が多いほど、抑うつが高い人、不安感が高い人、孤独感が高い人が多かった。
 - 個々のメディアで見ると、民放テレビの昼のワイドショー（不安感と関連）、日本のメディアのニュースサイト（抑うつと関連）、民放テレビの夜の報道番組（人生満足感と関連）について、精神的健康との関連が見られた。
 - 家族や友人との会話で情報を得ているほど、不安感が高い人が少なく、孤独感が低かった。
- ⇒ 戦争についてのメディア視聴が多いことで、精神的健康を悪化させる可能性が示唆された。
- ⇒ 一方、家族や友人との会話で戦争についての情報を得ることは、精神的健康の維持につながる可能性がある。

2-2. 戦争についての 態度

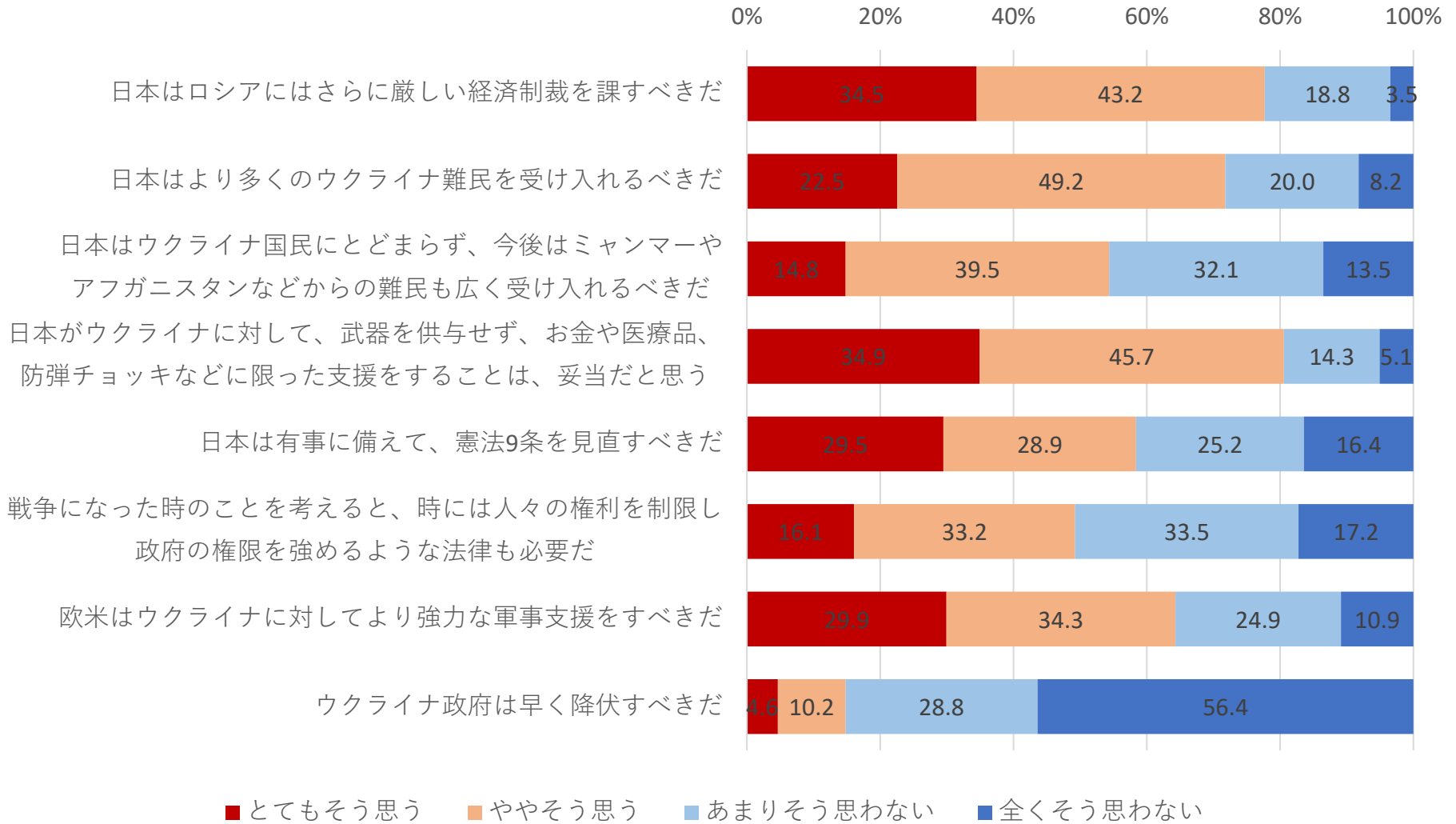
戦争についての考え方：質問項目

問 ロシアとウクライナの戦争について、あなたの考えに近いものはどれですか。

(選択肢：とてもそう思う／ややそう思う／あまりそう思わない／全くそう思わない)

- 日本はロシアにはさらに厳しい経済制裁を課すべきだ
- 日本はより多くのウクライナ難民を受け入れるべきだ
- 日本はウクライナ国民にとどまらず、今後はミャンマーやアフガニスタンなどからの難民も広く受け入れるべきだ
- 日本がウクライナに対して、武器を供与せず、お金や医療品、防弾チョッキなどに限った支援をすることは、妥当だと思う
- 日本は有事に備えて、憲法9条を見直すべきだ
- 戦争になった時のことを考えると、時には人々の権利を制限し、政府の権限を強めるような法律も必要だ
- 欧米はウクライナに対してより強力な軍事支援をすべきだ
- ウクライナ政府は早く降伏すべきだ

戦争についての考え方：単純集計



- 日本がロシアにさらに厳しい経済制裁を課すべきだと考えている人は80%近くと多数である
- 有事に備えて憲法や法律を見直すべきだと考える人は50%程度いる

2-3. 戦争についてのメディア視聴と 態度の関連

日本はロシアにさらに厳しい経済制裁を課すべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析 a)

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.019
民放テレビの昼のワイドショー	.034
民放テレビの夜の報道番組	.153**
雑誌	-.009
新聞	-.075
ラジオ	.085 †
YouTubeなどの動画メディア	-.058
TwitterなどのSNS	.031
家族や友人との会話	-.030
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.038
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	-.026
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	-.016
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.047
年齢	.111 *
性別 (女性=1, 男性=0)	-.083 *
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.004
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.046
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	-.016
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.055
調整済みR ²	
R	

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 民放テレビの夜の報道番組・ラジオで戦争の情報に触れている人ほど、賛成していた。
- 年齢が高いほど、また男性ほど賛成していた。

日本はより多くのウクライナ難民を受け入れるべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析 a)

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.091 †
民放テレビの昼のワイドショー	.019
民放テレビの夜の報道番組	.100 †
雑誌	-.053
新聞	.045
ラジオ	-.054
YouTubeなどの動画メディア	-.052
TwitterなどのSNS	-.045
家族や友人との会話	.012
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.065
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	.056
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.004
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.009
年齢	.116 *
性別 (女性=1, 男性=0)	-.030
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.060
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	-.015
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	.020
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.021
調整済みR ²	.056 ***
R	.285

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- NHK・民放テレビの夜の報道番組で戦争の情報に触れている人ほど、賛成していた。
- 年齢が高いほど賛成していた。

日本はウクライナ国民にとどまらず、今後はミャンマーやアフガニスタンなどからの難民も広く受け入れるべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析^{a)}

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.116*
民放テレビの昼のワイドショー	-.056
民放テレビの夜の報道番組	.119*
雑誌	.004
新聞	.089†
ラジオ	-.011
YouTubeなどの動画メディア	-.082†
TwitterなどのSNS	.012
家族や友人との会話	-.054
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.027
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	.122*
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	-.034
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.033
年齢	.159***
性別 (女性=1, 男性=0)	-.004
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.022
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.014
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	.010
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.003
調整済みR ²	.079***
R	.321

- NHK・民放テレビの夜の報道番組・新聞・BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディアで戦争の情報に触れているほど、賛成していた。
- YouTubeなどの動画メディアで情報に接しているほど、反対する傾向があった。
- 年齢が高いほど、また男性ほど賛成していた。

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

a) 標準偏回帰係数 β が大きいほど考え方に賛成

日本がウクライナに対して、武器を供与せず、お金や医療品、防弾チョッキなどに限った支援をすることは、妥当だと思う

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析^{a)}

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.046
民放テレビの昼のワイドショー	.036
民放テレビの夜の報道番組	.110*
雑誌	-.089 †
新聞	.098*
ラジオ	-.065
YouTubeなどの動画メディア	-.103*
TwitterなどのSNS	.061
家族や友人との会話	-.064
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.058
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	.012
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.042
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.012
年齢	.014
性別 (女性=1, 男性=0)	.066 †
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.096*
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.006
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	.041
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	.056
調整済みR ²	.068***
R	.260

- 民放テレビの夜の報道番組・新聞で戦争の情報に接しているほど、賛成していた。
- 雑誌・YouTubeなどの動画メディアで情報に接しているほど、反対していた。
- 女性ほど、また学歴が低いほど賛成していた。

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

a) 標準偏回帰係数 β が大きいくほど考え方に賛成

日本は有事に備えて、憲法9条を見直すべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析 a)

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.005
民放テレビの昼のワイドショー	.080
民放テレビの夜の報道番組	-.022
雑誌	.111*
新聞	-.158**
ラジオ	.020
YouTubeなどの動画メディア	.069
TwitterなどのSNS	-.010
家族や友人との会話	-.001
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	-.011
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	.012
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.079
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.062
年齢	.048
性別 (女性=1, 男性=0)	-.162***
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.002
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.001
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	-.014
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.016
調整済みR ²	.040***
R	.255

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 雑誌で戦争の情報に接している人ほど賛成し、新聞で接している人ほど反対していた。
- 男性ほど賛成していた。

戦争になった時のことを考えると、時には人々の権利を制限し、政府の権限を強めるような法律も必要だ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析^{a)}

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	.011
民放テレビの昼のワイドショー	.101 †
民放テレビの夜の報道番組	-.016
雑誌	.185 **
新聞	-.177 ***
ラジオ	-.005
YouTubeなどの動画メディア	.063
TwitterなどのSNS	.027
家族や友人との会話	-.098 *
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.019
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	-.070
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.120 *
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.047
年齢	.098 *
性別 (女性=1, 男性=0)	-.058
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	.000
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	-.003
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	.062
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.041
調整済みR ²	.054 ***
R	.281

- 民放テレビの昼のワイドショー・雑誌・マスメディア以外が運営しているニュースサイトで戦争の情報に接しているほど、賛成していた。
- 新聞・家族や友人との会話で情報に接している人ほど反対していた。
- 年齢が高いほど賛成していた。

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

a) 標準偏回帰係数 β が大きいくほど考え方に賛成

欧米はウクライナに対してより強力な軍事支援をすべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析 a)

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	-.025
民放テレビの昼のワイドショー	.117*
民放テレビの夜の報道番組	.102 †
雑誌	.000
新聞	-.035
ラジオ	-.014
YouTubeなどの動画メディア	-.004
TwitterなどのSNS	.029
家族や友人との会話	-.082 †
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.012
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	-.016
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	.065
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	-.053
年齢	.074
性別 (女性=1, 男性=0)	-.119**
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.016
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.041
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	.014
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	-.024
調整済みR ²	.026**
R	.227

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- 民放テレビの昼のワイドショー・夜の報道番組・で戦争の情報に接しているほど賛成していた。
- 家族や友人との会話で情報に接しているほど反対していた
- 男性ほど賛成していた

ウクライナ政府は早く降伏すべきだ

意見への賛成度を従属変数とした重回帰分析 a)

	標準偏回帰係数 (β)
NHK	-.049
民放テレビの昼のワイドショー	-.022
民放テレビの夜の報道番組	-.089 †
雑誌	.060
新聞	-.016
ラジオ	.022
YouTubeなどの動画メディア	-.009
TwitterなどのSNS	.036
家族や友人との会話	-.059
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト	.056
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア	-.055
マスメディア以外が運営しているニュースサイト	-.036
ロシアやウクライナについて書かれた書籍	.150 **
年齢	-.107 *
性別 (女性=1, 男性=0)	.134 **
学歴 (1=中学校~5=大学・大学院)	-.097 *
世帯収入 (1=200万未満~7=1200万以上)	.037
就労状態 (現在仕事をしている=1, していない=0)	-.022
婚姻状態 (現在結婚している=1, 他=0)	.094 *
調整済みR ²	.057 ***
R	.280

† p<.10, * p<.05, **p<.01, ***p<.001

- ロシアやウクライナについて書かれた書籍で戦争の情報に触れているほど賛成していた
- 民放テレビの夜の報道番組で触れているほど反対していた。
- 年齢が若いほど、女性ほど、学歴が低いほど、現在結婚している人ほど、賛成していた。

戦争についてのメディア視聴と態度の関連：まとめ

+：視聴しているほど賛成
 -：視聴しているほど反対

	より厳しい経済制裁をすべき	ウクライナからの難民の受け入れ	他国からの難民の受け入れ	武器を供しない支援が妥当	有事に備えた憲法9条の見直し	有事に備えた法律の見直し	欧米はもっと軍事支援すべき	ウクライナ政府は降伏すべき
NHK		+	+					
民放テレビの昼のワイドショー						+	+	
民放テレビの夜の報道番組	+	+	+	+			+	-
雑誌				-	+	+		
新聞			+	+	-	-		
ラジオ	+							
YouTubeなどの動画メディア			-	-				
TwitterなどのSNS								
家族や友人との会話						-	-	
日本の新聞社やテレビ局の運営するニュースサイト								
BBCやニューヨークタイムスなど欧米のマスメディア			+					
マスメディア以外が運営しているニュースサイト						+		
ロシアやウクライナについて書かれた書籍								+

NHK／民放テレビの夜の報道番組／新聞といった旧来型のマスメディアで戦争の情報に触れている場合と、雑誌／YouTubeなどの動画メディア／マスメディア以外が運営しているニュースサイトといった比較的新しい媒体で触れている場合で、戦争に対する態度が大きく異なった。

戦争についてのメディア視聴と態度の関連：まとめ

- 日本がロシアにさらに厳しい経済制裁を課すべきだと考えている人は**80%**近くと多数であった。
- 有事に備えて憲法や法律を見直すべきだと考える人は**50%**程度いた。

- 戦争についての情報に触れているメディアの種類により、戦争についての態度には違いが見られた。

- **NHK**／民放テレビの夜の報道番組／新聞といった旧来型のマスメディアで戦争の情報に触れている場合は、より厳しい経済制裁や、難民の受け入れ、武器を供与しない支援などに賛成する態度が示された。
- 一方、雑誌／**YouTube**などの動画メディア／マスメディア以外が運営しているニュースサイトといった比較的新しい媒体で触れている場合は、上記の意見に反対する傾向や、有事に備えた憲法**9**条や法律の改正に賛成する意見など、異なる傾向が見られた。

引用文献

Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the Three-Item Loneliness Scale. *BMC Psychology*, 7:20, 1-8.

角野善司 (1995). 人生に対する肯定的評価尺度の作成(1). 日本教育心理学会第37回総会発表論文集, 95.

村松公美子 (2014). Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder -7 日本語版 - up to date -. 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究, 第7号, 35-39.

Ueda, M., Nordström, R., Matsubayashi, T (2021). Suicide and mental health during the COVID-19 pandemic in Japan, *Journal of Public Health*, fdab113, <https://doi.org/10.1093/pubmed/fdab113>.

分析・資料作成：竹内真純